リフォルタ 施工説明

■基本手順

1 環境・下地の確認 → 2 清掃 → 3 下地補修 → 4 割り付け（墨出し） → 5 接着剤の選択・塗布 → 6 貼り付け → 7 圧着 → 8 養生

1.環境・下地の確認

施工時の環境（湿気・温度）を確認してください。
下地がモルタル下地の場合、十分に乾燥しているかを確認してください。
※下地の水分レベルはグレードI（水分計HI-540のDモードで440未満）としてください。
合板下地の場合、釘止めで、釘頭は良く打ちこんであることを確認してください。下地のたわみや段差がないか確認してください。
砂や塵、埃等を除去し、適切な下地処理を行い、平滑でよく乾燥し、強固であることを確認してください。下地に不陸や隙間（フローリングの目地隙など）があるまま施工すると、施工後にタイルの表面に不陸や隙の形状が陰影として映ることがあります。
貼り替えの場合、下地に残った接着剤はきれいに除去、または下地補修材で平滑に仕上げてください。

施工可能な下地

コンパネ／モルタル／クッションフロア（3.0mm厚未満）／フローリング（バッキングの無いもの）

施工できない下地

フリーアクセスフロア／クッションバッキング付きのフローリング／3.0mm厚以上のクッションフロア／クッション性が高く沈み込みの激しい床材等
※制電タイプのタイルではありませんので、帯電防止性能を求められる場所での使用は避けてください。

2.清掃

床の汚れ・ゴミ・塵などは接着剤の効力を弱めクレームの原因に繋がるため、清掃をしっかりと行ってください。

3.下地補修

下地の確認を行った時点で、下地の亀裂や平滑でない部分は、床用の下地調整材で補修してください。

4.割り付け（墨出し）

基準線を中心にして左右対称になるよう墨を打ってください。壁際には商品サイズの半分以下の端物が入ることは、できる限り避けてください。そういった場合は基準線を中心からずらしていただく事をおすすめします。

5.接着剤の選択・塗布

①かんたんリフォーム工法（ピールアップ工法）

GTS（BB-558・588）をローラー（中毛）で平滑に塗布してください。専用接着剤GTSの塗布量は100g～150g/㎡です。糊だまりや塗りムラがあると表面に塗布跡が現れる場合があります。ローラーで塗布する場合は、厚塗りを行ってください。
（1度塗りでは50g/㎡しか塗布できません。）
塗布量が少ないと、接着力が不足し、突き上げや目隙の原因となります。

②一般工法（接着工法）

PC-2（BB-576・577）をご使用ください。
※完全接着するため剥がしにくくなります。
※気温、下地を考慮し、各接着剤の適切なオープンタイムを取ってください。

③耐湿・耐熱工法（水分が高い、または耐熱が求められる場合）

EP-300（BB-575・584）・WPX（BB-479・480）・WG（BB-601・602・603）をご使用ください。
※完全接着するため剥がしにくくなります。

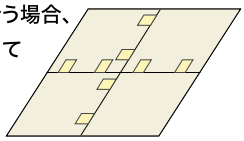
▶注意 吸水性の高い下地や、下地補修材で調整を行った箇所は、塗布量を増やしてください。
常に直射日光が当たる場合、床暖房を使用される場合は、耐熱工法を行ってください。

6.貼り付け

施工時の環時の室温は15～30℃を保ってください。施工時の室温とタイルに温度差があると、施工直後だけではなく、後日、目地隙き、突き上げが生じる可能性があります。

▶注意 10℃以下での施工は避けてください。

タイルの詰めすぎは、突上げの原因になりますのでお避けください。
夏場などの高温時は、『きつめ』に施工してください。
やむなく15℃以下でピールアップ工法を行う場合、同梱のスペーサー（0.2mm厚）を切り取って使用してください。
タイルにガラス繊布が入っているため、通常のタイルよりもしっかりとカッターを入れてください。
壁際、柱まわりに使用するタイルは、垂直にカットし、1～2mmゆとりを持たせて、貼り付けてください。



7.圧着

施工後はポンドローラーなどでよく圧着してください。
スペーサーの除去は圧着前に行ってください。
スペーサーをはずすタイミングが早いと、タイルがずれてしまう場合があるので注意してください。

8.養生

施工直後はタイルの上をできるだけ通行しないようにするか、通気性のあるシートで表面を覆い、汚れが付かないようにしてください。
急激な温度変化によって、目地の突き上げや、表面の変退色が起こることがあります。

▶注意 直射日光が当る場所ではカーテンなどで必ず日除けを行ってください。一般工法の場合は1週間程、耐湿・耐熱工法の場合は2日間程の養生が必要です。